

## 新型コロナウイルス！国内蔓延

日本国内では2020年1月15日に武漢市に渡航歴のある肺炎患者から初めて検出され、2020年3月9日の時点で感染者が確定した患者は500人を超えました。ウイルスの蔓延に歯止めをかけるため日本国内では2020年2月1日より感染が確認された際に強制的な入院などを勧告できる“指定感染症”に定めた上で、休校や集会、イベントの自粛などを政府が呼びかけています。

### 1、新型コロナウイルス感染症とは？

新型コロナウイルス“SARS-CoV2”が原因とされている病気のことです。WHOは、“COVID-19”と名付けました。2019年12月以降、中国湖北省武漢市を中心に発生し、短期間で世界に広がっています。どのような経緯で“SARS-CoV2”が生み出されたのか明確には解明されていませんが、中国武漢市の魚介類卸売場で集団発生したことから、そこに何らかの原因が潜んでいるとも考えられています。コロナウイルスは、ヒトを含めた哺乳類、鳥類などに広く存在するウイルス（一本鎖RNAウイルス）で、エンベロープ（ウイルス表面の脂質性の膜）上にコロナ（王冠）のようなタンパク質の突起を持つことが特徴で、これが名前の由来にもなっています。エンベロープを持つウイルスはアルコールで失活するという特徴と、変異を起こしやすいという特徴があります。コロナウイルスは、一般的な風邪をひき起こすウイルスでもありますが、上記のように変異を起こしたり、動物界のウイルスがヒトに感染したりして重大な被害を与えることがあります。2002年に中国広東省から発生したSARS、2012年に中東地域を中心に発生したMERSなどもコロナウイルスの一種です。

### 2、感染経路は？

現在のところ、“SARS-CoV2”はヒトからヒトへ感染することが分かっており、中国への渡航者やその接触者と明確な接点がない人も感染が確認されています。感染経路は主に飛沫感染と接触感染（感染者の咳やくしゃみによって飛散した唾液や痰などに含まれるウイルスを飲み込んだり、触れたりすることによって感染すること）で、空気感染の可能性は少ないとされています。また感染してから症状



が現れるまでの期間は3～14日ほどとされており、潜伏期間中も感染を広げる可能性が示唆されています。致死率は2%(WHO)とされており、高齢者や糖尿病、免疫抑制状態にある患者さんは重症化しやすく小児は重症化しにくいといった傾向もみられています。

### 3、症状は？

コロナウイルス感染症では、発熱(37.5℃以上)、喉の痛み、咳、痰、胸部不快感などの一般的な肺炎症状が見られるケースが多いとされていますが、これらの症状がほとんどない感染者も報

告されています。日本国内で新型コロナウイルス感染症の診療に当たっている医師チームの見解によれば、新型コロナウイルス感染症は通常の風邪症状から出現するものの、非常に強い倦怠感を訴えるケースが多いともいわれています。また、発熱などの症状が(普通の風邪やインフルエンザと比べて)長引く傾向にあるとの意見もあります。さらに下痢や吐き気などの消化器症状、頭痛といった一見関連のなさそうな症状が現れる事もあるという事実から、医療機関での混乱、診断の遅れにつながり、感染拡大や重症化が免れない事態にもなりうると思われれます。

### 4、診断方法は？

現在のところ、各自治体の地方衛生研究所ならびに国立感染症研究所での遺伝子検査(行政検査)によって行われます。症状や渡航歴、患者への接触歴などから発症が疑われる場合は保健所に連絡ののち、発症後5日以内に採取した喀痰(または気管支吸引液)、咽頭拭い液、血液などを採取して調べます。そのほかにも肺炎を評価する目的で胸部レントゲン検査、胸部CT検査などが行われるのが一般的で、体に起きている炎症の程度を調べるために一般的な血液検査なども適宜実施されます。

### 5、治療方法は？

治療方法は現時点では確立していません。ワクチンもない事から拡大が進んでいるのが現状です。入院治療としては、発熱に対する解熱鎮痛剤、呼吸困難に対する酸素投与や気管挿管、脱水に対する補液などそれぞれの症状を改善することを目的とした対症治療が行われます。なお、現在、抗HIV治療薬の一種である“カレトラ”と呼ばれる薬が新型コロナウイルス感染症に効果があるとして臨床試験が行われています。日本各地では現在迅速キットの医療機関への普及が進み、感染疑いの患者さんは迅速検査を実施しながら診断治療にあたっています。

### 6、感染しないために、心がけること

- ①人ごみを避ける
- ②手洗いうがいをしっかりとる
- ③睡眠時間を十分に取って健康的な生活をする。

この3点につきます。みなさんも体調管理をしっかりとしたうえで生活をしてください。



(記:呼吸器内科 山田真也)



### 感染管理システムが導入されました

電子カルテ更新に伴い、新しく「感染管理システム」が導入されました。ダウンメニューに今までの「病棟マップ」の他に「感染病棟」があります。患者毎の感染経路別予防策、耐性菌検出状況や38度以上の発熱、デバイスの挿入情報などがマップ上で確認することができます。「病棟マップ」と部屋や患者の配置は同じなので間違わないように注意してください。他にも感染・抗菌薬適正ラウンド介入やサーベイランス情報なども感染管理システムから確認することができます。

